

# 星の子 通信

## ～チーム星宮のみなさんへ～



H.30.12.13 No.14

文責 新井麻起

先生方の活躍ぶりや授業の様子、先生方へのメッセージを載せています。

本校では、学校研究課題として、主題「生きる力」を身に付けた児童の育成～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善～に取り組んでいます。

校内授業研究の4回目として、12月10日(月)に 除村美和 教諭 による4年の道徳科の授業が公開されました。

4年 除村美和 教諭 教科 道徳 主題名 人間関係育成プロジェクト 資料名「絵はがきと切手」



【友だちについての事前アンケート】

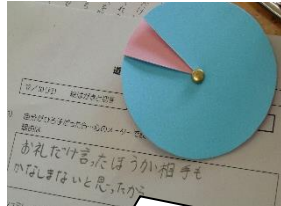
【「心のもさし」で今の自分の気持ちを表す】

【自分の気持ちの伝え合い】

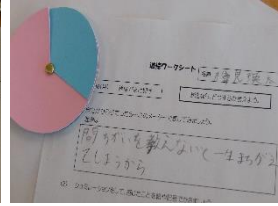
主人公のひろ子さんへ友だちの正子さんから絵葉書が届くが、そのはがきは切手が58円不足したものであった。切手が不足していたことを正さんに伝えるべきか伝えないでおくべきか、両者の気持ちを考えながら自分だったらどうするか、友だちと考え、話し合う授業。



友だちとはどんな人かイメージした。「困ったときに助けてくれる人」「優しい人」等があげられた。



「伝えるべき」はピンク、「伝えない」はブルーとして、自分はどちらの気持ちに近いのか、円グラフを動かしながら、その理由もプリントに書く。



自分の考えを班員と伝え合い、なぜそうしたのか伝え合いながら自分の考えをもう一度考えてみる。

【今の自分の気持ちの場所】

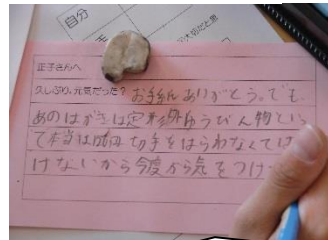
【伝える時の文】

【伝える時の分をお互いに読む】

【伝えない時の分を読む】



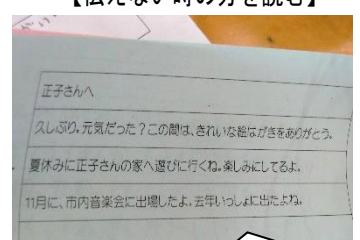
自分の気持ちは今どの辺りなのか、座標軸の中に自分の名前を貼ってみる。



ひろくさんが正子さんに、切手が不足していることを伝えるときはどんな風に伝えるか考え、書く。



正子さんに宛てて書いたものを隣の人と読みあいながら、受け取ったときの気持ちを体験する。

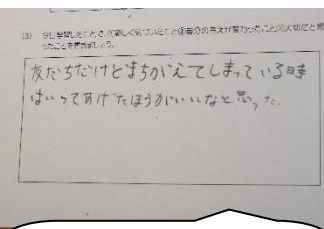


正子さんが不足分を伝えなかった時の文を読み、伝える時とのちがいを考える。

【振り返り】

「主体的・対話的で深い学び」に迫るための手立て

【研究協議での意見】



授業を通して考えたことやこれからの生活に生かしたいことを書く。

- ☆課題提示の工夫
- ☆見通し
- ☆思考ツールの活用
- ☆発問の工夫（「なぜ？」 「どうして？」自分の言葉で説明）
- ☆学習形態の工夫（4人 または2人）
- ☆振り返り

- ☆「心のもさし」や「座標軸」等 気持ちが可視化されていて良かった。
- ☆話し合い後の「心のもさし」の変更が少なかった。揺さぶりをするためにも「なぜ」「どうして」といった発問の工夫が必要。
- ☆「特別の教科道徳」目指すところは「考え、議論する道徳」である。
- ☆モラルジレンマが大切。